



プラント系でグループ初の海外拠点 日・中・米が原材料の供給で連携

拠点稼働に合わせて新日鉄住金軟件(上海)がシステム導入を支援

背景

プラント系で新日鉄住金化学グループ初の海外拠点を中国でゼロから立ち上げる。開発期間が限られているなか、拠点の稼働に合わせて、会計システム/OAシステム/生産管理システムそれぞれを最適化して導入したいと考えた。



ニ鉄隆(江蘇)炭黒有限公司
喜科墨(江蘇)針状焦科技有限公司
常務副総経理
小木曾 敏孝氏



ニ鉄隆(江蘇)炭黒有限公司
管理部
部長
小山 悟氏



ニ鉄隆(江蘇)炭黒有限公司
管理部
人事総務課
マネージャー
李 保存氏

ニ鉄隆(江蘇)炭黒有限公司

新日鉄住金化学株式会社
本社: 東京都千代田区外神田4-14-1
設立: 1956年
資本金: 50億円(2015年3月31日現在)
従業員数: 連結1847名(2015年3月31日現在)
株式会社シーケム(新日鉄住金化学65%出資)
新日化カーボン株式会社(新日鉄住金化学100%出資)

ニテロン
ニ鉄隆(江蘇)炭黒有限公司
本社: 中国・江蘇省徐州市邳州経済開発区平果西路
資本金: 3億4000万元(2015年10月30日現在)
事業内容: カーボンブラックの製造・販売

シーケム
喜科墨(江蘇)針状焦科技有限公司
本社: 中国・江蘇省徐州市邳州経済開発区平果西路
資本金: 10億6000万元(2015年10月30日現在)
事業内容: ニードルコークスの製造・販売およびカーボンブラックオイル、ピッチ類の製造・販売

ソリューション

各システムの導入を支援するITパートナーとして、中国におけるシステム構築・運用実績が豊富な新日鉄住金軟件(上海)を選定。日本語と中国語で打ち合わせを行うとともに、必要に応じて中国向けのクラウドサービスを活用する。

プラント系の海外拠点設立に合わせて新システムの導入を検討

製鉄化学事業で世界トップクラスの規模を誇る新日鉄住金化学。同社が、コールタール蒸留の世界最大手米Koppersとの戦略的提携を基に、カーボンブラックやニードルコークスといった化学製品の製造・販売拠点を中国に新設すると発表したのは2012年のことである。日本・中国・米国の大手が江蘇省徐州市に隣接して拠点を設立。コークスで中国最大手の沂州(いしゅう)集団がコールタールを製造し、それをKoppersと沂州集団の合併企業が処理。さらに新日鉄住金化学がカーボンブラックおよびニードルコークス事業ではニ鉄隆(江蘇)炭黒を、ニードルコークス事業では喜科墨(江蘇)針状焦科技を設立。拠点の稼働に合わせて新システムの導入を計画した。

中国における実績が豊富な新日鉄住金軟件(上海)に支援を依頼

拠点設立プロジェクトは2012年11月にスタートした。まず会社設立に合わせ、中国では定番の会計パッケージソフトウェア「金蝶」を採用し、導入を支援するITパートナーとして複数の日系ITベンダーから、新日鉄住金ソリューションズの中国現地法人である新日鉄住金軟件(上海)(以下、NSSOL上海)を選定。2013年後半には、設備予約やスケジュール管理を行うOAシステムとしてNSSOL上海のクラウドサービスを導入する。さらに、同時期には原材料調達から出荷までの基幹業務をカバーする生産管理システムの導入を検討。日本の生産管理システムを基本にしつつ、ITベンダーと日本語で打ち合わせができる、生産拠点を運営する機能がそろっている、コストパフォーマンスが高いといった評価を基に、「Infor SyteLine」をベースにしたNSSOL上海の提案を選択する。

拠点の業務をシステムで標準化、製品の安定供給を強力にサポート

NSSOL上海の支援で導入した3システムはすべて計画通り稼働している。パッケージソフトウェア「金蝶」を使った会計システムは、会社設立時の2013年6月に稼働。NSSOLのクラウドサービス「absonne for China」上で提供されるOAシステムは、オフィスに会議室が整備された2014年10月から本格的に利用している。生産管理システムの開発は2014年6月に開始され、厳格なスケジュール管理の下、最適化した機能を実装した。2015年9月の製造設備試運転に伴って生産管理システムも稼働を開始している。これらシステムの導入によって、拠点では業務の標準化が進んだ。さらに生産管理システムについては、人為ミスを防ぐことで製品の安定的な供給が実現すると期待されている。今後は、会計システムと生産管理システムとの連携強化などを検討していく。

成果

拠点の立ち上げに合わせて順次、会計システム/OAシステム/生産管理システムの本格稼働を開始。拠点における業務の標準化をシステムで推進することによって、製品の安定的な供給が実現すると期待されている。

Key to Success

プラント系でグループ初の海外拠点設立に際して、ニ鉄隆(江蘇)炭黒は、三つのシステムを導入した。

常務副総経理の小木曾敏孝氏は「会社組織の設立に先駆け、プロジェクトチームが2012年11月に結成され、中国における活動を開始。当初は、可能な限り業務を手作業で行うという考えに基づいて、最小限のシステム導入を検討しました」と振り返る。

まず、定番の会計システム導入をNSSOL上海に依頼。続いて、設備予約やスケジュール管理を担うOAシステムの導入を検討した。

管理部 部長の小山悟氏は「出張が多い当社スタッフが外出先から容易にアクセスできるように、日系ITベンダーのクラウドサービスを中心に調査を行い、二つに絞り込みました。最終的に当社スタッフが両方を試用し、absonne for ChinaをベースにしたNSSOL上海のクラウドサービスを選択しています」と(小山氏)

さらに、生産管理システムの導入を検討。改めて複数のITベンダーからNSSOL上海を選択する。

「拠点の立ち上げをゼロから少数のスタッフで進めていましたが、日本の工場と同等の複雑な処理を実装する必要があるため、ITベンダーと日本語で対話しながら、システムをきめ細かく設計できることを重視しました」と(小木曾氏)

NSSOL上海のエンジニアの働きぶりに対する評価も高い。

「拠点の稼働に間に合うように、短工期でシステム開発を進める必要がありましたが、NSSOL上海はスケジュール通りに開発を進めてくれ、非常に助かっています。当社のスタッフ

に対するシステム教育もスケジュール通りに実行できました」と(小山氏)

日本語と中国語で開発を推進 日程変更にも臨機応変に対応

小山氏は「NSSOL上海のエンジニアは中国人ですが、日本語のコミュニケーションで困ったことはありません。業務要件についてもよく勉強して理解していると感じました。こちらも忙しく、打ち合わせのスケジュールをよく変更しましたが、それに合わせて臨機応変に作業を進めていただき、大変感謝しています」と振り返る。

管理部 人事総務課の李保存氏は「開発中のシステムについて多くの改善要求を提出しましたが、いつも時間通りに解決してもらいました。当社では、日本人スタッフが開発スケジュー

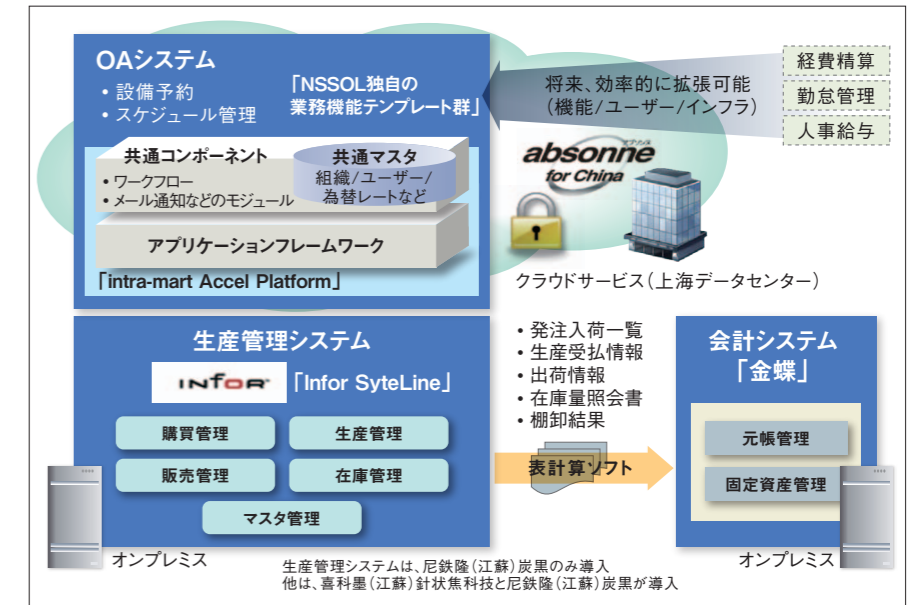
ルなどに関する大局的な要望を出す一方、中国人スタッフがシステムの利便性や操作性に対するきめ細かな要望を出しましたが、NSSOL上海は双方の要望に対応しました」と語る。

拠点は2015年9月から試験稼働を開始。生産管理システムも本格運用が始まっている。

小山氏は「試験稼働によってシステムをフルに使うためのノウハウを蓄積しているところですが、最終的にお客様へ、高品質の製品を安定供給することが我々の使命です。システムの役割は大きいと考えています」と語る。

小木曾氏は「品質管理業務の支援など今後追加したい機能がまだいくつか残っています。当社は、限られた人数のスタッフで事業を進めていくため、専任のIT担当者を置くのは当面難しいと思います。NSSOL上海にはこれからも当社のIT業務について、幅広い支援をお願いします」と語る。

■ニ鉄隆(江蘇)炭黒が導入した3システムの概要



■コアテクノロジー

クラウドサービス、会計、スケジュール管理・設備予約、生産管理、購買管理、販売管理、在庫管理

■システム概要

●サーバー: Windows×2 ●クラウド: absonne (アブソンズ) for China ●システム共通基盤: Intra-mart Accel Platform ●アプリケーション: 金蝶、NSSOL独自の業務機能テンプレート群、Infor SyteLine